

熊本県人権子ども集会開催！

平成29年10月14日（土）、パークドーム熊本において、部落差別をはじめあらゆる差別をなくし、人権が共存する人権尊重社会の実現を目指す、熊本県人権子ども集会が開催されました。

昨年度は、「平成28年熊本地震」の影響を考慮し中止としましたが、本年度は、県内の学校や地域からおよそ8,000人の参加がありました。

事前に4回の子ども実行委員会（中学生3人、高校生6人、特別支援学校高等部生1人）を開き、この集会に対する思いや願いを出し合い、集会内容や集会アピール文の検討を重ね、当日は、子ども実行委員の運営により、体験・活動報告、全体活動、集会アピールの提案などが行われました。

【体験・活動報告】

合志市立合志小学校、嘉島町立嘉島中学校、学校法人不知火学園誠修高等学校の児童生徒が、それぞれの学習活動や体験を踏まえた報告を行いました。

【全体活動】

「広げよう 一人一人の笑顔 ～ありがとうの思いを込めて～」をテーマに、参加者全員が手話を交えて歌声を響かせました。

【集会アピール】

あらゆる差別やいじめをなくしていくために、子ども実行委員から、自分たちが行動すべきことの提案がなされ、参加者全員の拍手によって採択されました。

この集会は、子どもたちの人権尊重の意識を高め、先生方・保護者等の方々にも人権教育のすばらしさを感じていただいている集会となっています。また、事前や事後の取組を行うことで、参加者だけではなく、学校全体へとその効果を広げ、「人権尊重の精神に立った学校づくり」の一助につながるのではないかと思います。今後とも、熊本県人権子ども集会への積極的な参加及び事前・事後の取組の充実をお願いします。



部落差別をはじめあらゆる差別をなくす 熊本県人権子ども集会アピール文

どうして人権学習を行っているのに差別やいじめはなくなるのでしょうか。

あなたは考えたことがありますか。
生まれた所が違うから、障がいがあるから、考え方が違うから…それだけで差別にあっている人の気持ちを。
あなたは考えたことがありますか。
相手の表情を見ることができず、文字だけで会話をするSNS等でいじめを受けている人の気持ちを。
あなたの周りの人達は本当に心の底から笑えているのでしょうか。

差別やいじめをなくすために私たちにできることは、
笑顔でいることや相手に一人ではないということを忘れないでいてもらうこと、
そして、相手のことや自分の分からないことを知り、理解していくことではないかと思えます。
水俣病やハンセン病では、その病気になっているというだけで差別を受けてこられた方が沢山います。
それは、病気のことを分かっておらず、理解が不十分であったことが原因の一つではないかと思えます。
同じようなことを繰り返さないために、私たちは正面から向き合っていく、
その努力が必要なのではないでしょうか。
また、相手のことを知るためには、積極的に話しかけてみましょう。そこから新しい関係が築かれていくことで、
相手に一人ではないこと、友という“なかま”がいるということが伝わると思えます。

「ありがとう」と感謝をしましょう。
笑顔で「ありがとう」と伝えるだけで、とても気持ちが良くなります。
相手との信頼関係を築くことができ、お互いに笑顔でいることが増えてくるのではないのでしょうか。
「どうせ自分は…」と考えるより、自分のことを好きになれるようなことをして、
あなたの笑顔を友だちへどんどん広げていき、そして、世界中の人々を笑顔で明るくしていきましょう。

個性は一人一人違って当たり前です。
その個性を認め合うことで差別やいじめをなくしていくことができるのではないのでしょうか。
相手を知り理解することはとても大切です。
相手を信じて思いやるそんな気持ちが誰かとの信頼につながっていくと思えます。
決して“一人だ”なんて思わないでください。
あなたにはあなたを思ってくれる人や感謝をしてくれる人、笑顔を向けてくれる人が必ずいます。
今、ここに集まっているみなさんが、まず一人ではないことを伝えてあげましょう。
そして、近くにいる人と“友だち”や“なかま”になって笑顔を向けてみましょう。
ここにいる私たちから笑顔の花を咲かせ、部落差別をはじめあらゆる差別やいじめをなくすとともに、
勇気と元気を与えていきましょう。

2017年10月14日 部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会参加者一同